

翔

百万石蝶談会 No. 151

August 2001

マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録(第1報)

オオセンチコガネの採集記録

石川県輪島市での2000年の蝶採集記録から

ロッキー山脈採集旅行2000 Part2



マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録（第1報）

山口英夫・荒木克昌

石川県能登北部において マルコガタノゲンゴロウを確認したので報告する。現在までに石川県で報告されているゲンゴロウ科は29種（西原,1998）。記念すべき30種目は予測もできなかったマルコガタノゲンゴロウであった。この快挙をなしとげたのは富山県が誇るトンボの第一人者、荒木克昌。氏の報告によれば、確認場所はやや大きめの水深の浅い池であった。水中に



はフサモ類、水面にでていたものではガマ、ヨシなどの水生植物が見られた。確認地点は岸辺から約3m入った水草の中で、本種以外の確認生物はミズムシ、メダカが多産し、石川県のレッドデータブックに記載されているものではオツネトンボ（準絶滅危惧種）が見られた。他に確認できたものでは昆虫類ではクロイトトンボ、キイトトンボ、モノサシトンボ、オオアイトトンボ、アオイトトンボ、コサナエ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、チョウトンボ、コフキトンボ。魚類ではギンプナ、ドジョウ。両生類ではツチガエル、モリアオガエルが多数見られるなど水質にも恵まれ比較的良好な環境の池であった。また、同地内のすぐ近くの池ではクロゲンゴロウ1♂1♀を確認している。

第2報は、筆者が現地で調査後になる予定。また、詳細な確認地点については、筆者の付近周辺の調査結果にもよるが、今回は荒木氏と協議のうえ種の保護上差し控えるのが妥当であると判断した。

マルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus* Sharp, 1873

2001年7月2日 石川県能登北部 1♀ 荒木克昌 採集

《 参考文献 》

西原昇吾（1998）ゲンゴロウ科．石川県の昆虫：121-125．石川県．

《やまぐち ひでお 〒930-0944 富山市開726》

《あらき かつまさ 〒939-8045 富山市本郷町5区57-1 ヴィル・フォルレII-201》

オオセンチコガネの採集記録

富 沢 章

オオセンチコガネ *Geotrupes aurata* Motschulsky の石川県内における記録は、これまでに羽咋郡押水町県営放牧場(宝達山麓)が知られるのみである(石川県の昆虫, 1998)。今回、筆者は本種を鹿島町碁石ヶ峰で採集した。また、津幡町における未発表の採集記録があることを知ったので、ここであわせて報告する。

1986年9月21日	河北郡津幡町木窪	4頭	松井正人	採集
1986年10月4日	河北郡津幡町木窪	5頭	松井正人	採集
1986年10月6日	河北郡津幡町木窪	6頭	松井正人	採集
1986年10月11日	河北郡津幡町瓜生	9頭	松井正人	採集
1986年10月12日	河北郡津幡町瓜生	8頭	松井正人	採集
1986年10月4日	河北郡津幡町三国山	4頭	松井正人	採集
2000年10月17日	鹿島郡鹿島町碁石ヶ峰	3頭	富沢 章	採集
2000年10月17日	羽咋市碁石ヶ峰	1頭	富沢 章	採集
2000年11月3日	鹿島郡鹿島町碁石ヶ峰	1頭	富沢 章	採集

いずれも牛糞や人糞のトラップに飛来し、糞内や土中に潜入していたものである。富山県では氷見市から記録があることから(富山県の昆虫, 1979)、宝達丘陵を中心に比較的広く分布している可能性が出てきた。鹿島町石動山や宝達山から津幡町俱利伽羅いたる山域が気になるところである。なお、筆者は2000年に石動山、穴水町別所岳、輪島市鉢伏山、輪島市宝立山で採集を試みたが、11月上旬と調査時期が遅かったこともあってか、本種は得られなかった。

ところで、本種はシカやイノシシ、ウマ、ウシなどの大型獣類の糞に依存しているといわれる。関東地方の遺跡の発掘から縄文時代の平野部には普遍的に分布していたと考えられている(野村, 2000)。石川県の場合、大型獣といえば能登地方に分布していたシカが考えられるが、現在は生息していない。宝達丘陵のオオセンチコガネは、人や小型獣類の糞を糧に、細々と生存しているのであろうか。

最後に津幡町における本種の採集記録について教えて下さった松井正人氏にあつくお礼申し上げる。

《 参考文献 》

石川むしの会・百万石蝶談会(1998)石川県の昆虫. 石川県.

野村周平(2000)東村山市下宅部遺跡の昆虫遺体(1). インセクタリアム37(10):4-8.

富山県昆虫研究会(1979)富山県の昆虫. 富山県.

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

石川県輪島市での2000年の蝶採集記録から

日吉芳朗・日吉宏朗・日吉南賀子

■ オナガアゲハ

輪島市におけるオナガアゲハの最も古い記録は、浅見行一・的場和雄(1952)によるもので、採集・目撃地点として高洲山、河原田村、大屋村の3ヶ所があげられている。しかしそこには詳細が記述されていないのが惜しまれる。一方、1954年8月、河井町一本松公園で筆者の一人が2♂を採集したが(日吉芳朗、1969)、その後目撃することもなく長い時間が経過してしまった。

しかるに2000年5月、鉢伏山の溪流沿いに新鮮な1♂を目撃したのをきっかけに、深見一乗地内の林道大箱・鉢伏線の道路沿いで数頭が目にとまり、そのうち1頭を採集することができた。また8月には鉢伏山の頂上付近でも1♀を採集した。

2000年5月25日	輪島市鉢伏山 (5636-07-57)	1♂目撃	日吉芳朗
2000年5月30日	輪島市深見一乗 (5636-07-78)	1♂採集 2♂目撃	日吉芳朗
2000年8月2日	輪島市鉢伏山 (5636-07-57)	1♀採集	日吉芳朗

■ ジャコウアゲハ

ジャコウアゲハは浅見行一・的場和雄(1952)によれば、当時輪島市では未記録であったが、1965年、河井町重蔵神社境内で石畑久雄氏により大量発生していることが確認された(日吉芳朗、1969)。しかし翌年にはほとんど姿を見せなくなり、その後、採集記録としては1976年8月、同地での1頭のみで、以来、目撃することさえなかった。ところが2000年8月、鉢伏山で1頭を採集することができたが、この地点の周辺には食草のウマノズクサがみあたらず、他所からの飛来でないかと思われる。

1976年8月30日	輪島市河井 (5636-07-72)	1♂採集	日吉治朗
2000年8月2日	輪島市鉢伏山 (5636-07-58)	1♂採集	日吉宏朗

なお輪島市内では上記の他に上山町(1998年)、町野町舞谷(1992年)で松井正人氏により目撃されている(石川むしの会・百万石蝶談会、1998)。

■ ウスバシロチョウ

輪島市のウスバシロチョウの生息地(石川むしの会・百万石蝶談会、1998)に、2000年は新しく大沢町を加えることができた。

2000年5月27日	輪島市大沢 (5636-06-35)	1♂採集 1頭目撃	日吉南賀子
------------	--------------------	-----------	-------

この地で初確認した時期が遅かったためか、その後の記録はないが、この周辺は生息地として好条件を備えているように見え、今後の調査課題の一つと考えている。

■ テングチョウ

輪島市におけるテングチョウの最初の記録は、浅見行一・的場和雄（1952）にある1952年4月22日の河原田村熊野での1♀採集であろう。その後、石畑正夫、天野勝廣氏により1986年から1996年にかけて高洲山、鉢伏山、三蛇山などの山地で、数は少ないが採集・目撃されている。

一方、筆者らにとっては1993年、石休場での2頭採集が初めてであり、1995年、鉢伏山で1頭を採集したものの、その後姿を見ることはなかった。ところが、2000年6月下旬から7月上旬にかけて高洲山、鉢伏山、深見町、上山町などで採集・目撃され、とくに宝立山では大量発生しているのが確認された。

1993年8月26日	輪島市石休場(5636-07-34)	1♂1♀	日吉芳朗
1995年8月18日	輪島市鉢伏山(5636-07-57)	1♂	日吉宏朗
2000年6月25日	輪島市高洲山(5636-07-65)	1♂	日吉宏朗
2000年6月29日	輪島市高洲山(5636-07-65)	1♂	日吉芳朗
2000年6月30日	輪島市鉢伏山(5636-07-57)	1♂	日吉南賀子
2000年6月30日	輪島市深見(5636-07-68)	1♀	日吉南賀子
2000年7月2日	輪島市宝立山(5637-11-03)	3♂5♀	日吉宏朗
2000年7月2日	輪島市宝立山(5637-11-03)	2♂1♀	日吉芳朗
2000年7月3日	輪島市上山(5636-06-15)	1♀	日吉宏朗
2000年7月5日	輪島市宝立山(5637-11-03)	1♀	日吉南賀子
2000年7月26日	輪島市鉢伏山(5636-07-57)	1♂	日吉芳朗

■ ツマグロヒョウモン

1998年秋の気勝山での大発生以来(日吉芳朗・日吉南賀子、1999)、高洲山、宝立山などでは、その姿を見るのもめずらしくなくなった。2000年の輪島市での初見は7月6日であるが、9日には市街地の河井町重蔵神社境内でも1♀が目撃された。しかしその後はほとんど姿を見ることがなかったが、8月中旬から下旬にかけて気勝山の主に頂上付近の道路沿いに多数あらわれた。また、気勝山のかつての発生地でも♀の飛翔がみられ、秋の発生を期待させたが、9月上旬の下草刈りで一面が丸坊主にされ万事窮した。なお、高洲山と宝立山では、ほとんどみられなかった。筆者らによる2000年の採集・目撃記録を合計すると、気勝山：20♂1♀採集24♂7♀目撃、高洲山：1♂採集1♂2♀目撃、宝立山：1♂採集であり、新しい産地としては、以下の記録がある。

2000年7月6日	輪島市鉢伏山(5636-07-57)	1♀目撃	石畑正夫
2000年7月9日	輪島市河井(5636-07-72)	1♀目撃	日吉芳朗

■ コムラサキ

かつて輪島市であれば多数みられたコムラサキ（黒色型）が、近年ほとんどその姿をみせなくなった（日吉芳朗、日吉南賀子、2001）。ところが2000年には、5地点で少数ながら採集・目撃をすることができたことから、今後に希望をもたせるものであった。

2000年6月29日	輪島市鉢伏山(5636-07-47)	1♂	日吉宏朗
2000年7月2日	輪島市宝立山(5637-11-03)	2♂目撃	日吉宏朗
2000年7月10日	輪島市鉢伏山(5636-07-47)	1♂	日吉宏朗
2000年8月16日	輪島市別所谷大久保(5636-07-10)	1♀目撃	日吉宏朗
2000年8月22日	輪島市気勝山(5636-07-20)	1♀目撃	日吉芳朗

■ モンキチョウ

10月1日、高洲山中腹の標高440m地点でミヤマモンキチョウ様の個体（クツカケ型）1頭を日吉南賀子が目撃した。道路沿いのノギクの花で吸蜜しつつ翔んでいたもので、残念ながら取り逃がしたが、この地域では初見である。

また当日、鉢伏山で黄色型の♂♀が交尾しながら翔んでいるのを採集した。これは筆者らにとって最初の観察であったためフィールドにおける黄色型の♂♀の比率が気になった。ちょうどその時期に高洲山頂上付近でモンキチョウが大量発生していたため、2日間にわたって採集し虫めがねによる尾端の観察より♂♀を判別したところ、黄色型♀の比率が意外に高いことがわかった。

2000年10月1日	輪島市高洲山(5636-07-56)	1頭目撃(クツカケ型)	日吉南賀子
2000年10月2日	輪島市高洲山(5636-07-57)	7♂6♀(黄♀:3、白♀:3)	日吉芳朗
2000年10月5日	輪島市高洲山(5636-07-57)	5♂9♀(黄♀:5、白♀:4)	日吉芳朗

■ エゾミドリシジミ

9月20日、鉢伏山の北側斜面の造林地でエゾミドリシジミ1♀を日吉南賀子が採集した。これは輪島市で採集されたゼフィルスで最も遅い記録と思われる。ところがその翅表はかなりスレているものの、前翅と後翅に紫色（あるいは青色）の鱗紛が広くうすくちりばめられていた。白水隆監修（1976）によると、アイノミドリシジミの♀の後翅の基部付近に紫色があらわれているものがあり、またエゾミドリシジミの♀に「青藍色の鱗紛のでる個体がある」とある。

2000年9月20日	輪島市鉢伏山(5636-07-57)	1♀	日吉南賀子
------------	--------------------	----	-------

■ 宝立山での記録から

1999年までに宝立山で筆者らが採集・目撃した蝶の種類は42種であったが(日吉芳朗・日吉南賀子、2001)、2000年は新たに5種を追加することができ、計47種となった。それは、上記のコムラサキとテングチョウの他に、オオミドリシジミとジョウゼンミドリシジミ(日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子、2000)、それにツバメシジミである。

■ おわりに

ここで報告したものの他、輪島市で目撃したキベリタテハは日吉芳朗(2000)に、採集したゼフィルスは日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子(2001)に、マーキングをほどこしたアサギマダラの記録は日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗(2001)に、アサギマダラの舳倉島探訪記は日吉芳朗(2001)にと、別に記した。なお、キベリタテハとジョウゼンミドリシジミは輪島市での初記録で、輪島市の蝶は74種類となった。

いささか正確さを欠くものの、2000年にはこれまでになく多数みられた蝶と逆に見かけることが少なかった蝶があったように思われる。前者にはツマキチョウ、トラフシジミ、オオミドリシジミ、エゾミドリシジミ、メスグロヒョウモン、コチャバナセセリ、テングチョウがあり、後者にはゴマダラチョウ、イチモンジセセリがあげられる。しかし、その原因は定かでない。

とくに念入りに調査しているスギタニルリシジミ、オオムラサキ、スジボソヤマキチョウは、2000年もその姿を見ることができなかった。

《参考文献》

- 浅見行一・的場和夫(1952)石川県旧鳳至郡の蝶類について. 14pp. 輪島高等学校.
 石川むしの会・百万石蝶談会(1998)石川の昆虫. 537pp. 石川県.
 白水隆監修(1976)原色日本蝶類図鑑(全改訂新版). 422pp. 保育社.
 日吉芳朗(1969)石川県旧輪島町周辺の蝶類について. 石川県立輪島高等学校紀要(3):53-59.
 日吉芳朗(2000)キベリタテハを輪島市鉢伏山で目撃. 翔(147):1.
 日吉芳朗(2001)アサギマダラを求めて輪島市舳倉島をおとずれる. 翔(149):3-4.
 日吉芳朗・日吉南賀子(1999)輪島市気勝山のツマグロヒョウモン. 翔(136):15-16.
 日吉芳朗・日吉南賀子(2001)石川県輪島市での1999年の蝶採集記録から. 翔(149):5-8.
 日吉芳朗・日吉南賀子・日吉宏朗(2001)2000年の輪島市におけるアサギマダラ
 -マーキングと観察記録-. 翔(148):1-3.
 日吉宏朗・日吉芳朗・日吉南賀子(2001)2000年に輪島市およびその周辺で採集したゼフィルス.
 翔(150):1.
 《ひよし よしろう・あつろう・ながこ 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

ロッキー山脈採集旅行2000 Part 2

久 慈 一 英

2000年ロッキー山脈採集旅行は夢を載せ、7月13日のデンバーから始まった。瞬く間に4日が経ち、今回は5日目からのお話である。

7月17日 (5日目)

本日は、デンバーを立って、ワイオミング州のララミーLaramieという町へ移動する日である。朝から生憎の雨。ベアサウド峠 Berthoud Pass 11,307ft (=3,392m) という標高のある高原を通ったが、大雨。そのまま、ロッキーマウンテン国立公園 Rocky Mountain National Parkの観光へ移行した。それほど期待していなかったのだが、天候も回復してきて、素晴らしい山々の眺望が続いた。蝶は採れないけれども、ナキウサギやモルモットのような小動物がいたり、雪渓に入れるところがあったりで、結構子供達も楽しめる場所であった。生息する動物の図鑑をインフォメーションセンターなどで入手するのがよい。

7月18日 (6日目)

ララミーの町は、乾燥した半砂漠の中にあるのんびりした宿場町のようなところである。朝からお湯が出ないと妻が文句を言っている。フロントに尋ねてみると、理由はよくわからないがガスの供給が突然止まってしまったという。レストランでも電気で暖めるコーヒーと紅茶以外は何も作れないという。客が皆文句を言っているが、どうなる訳でもない。我々は、朝のみで移動してしまったので実害は少なかったが、米国ではこの手のいい加減な状態がしばしば起こる。文句を言って改善すればよいが、どうにもならない場合は忘れ



図1：スノーリーレンジ (3,254m) は広々とした場所で、頂上付近には残雪が見られる。周辺の高原は大変気持ちの良いところで、高山植物の宝庫である。蝶が多いポイントにはクリクサスタカネヒカゲやロッキーウスバシロチョウなど多種類の蝶が見られた。足場もよく蚊などもない採集には天国の様な場所であった。

ることが精神衛生上最善である。そう、都合の悪いときのアメリカ人の常套句は、「忘れろ」である。

今日は、グランドテトン国立公園 Grand-Teton National Parkの近くのジャクソンという町への移動日である。しかし、近くにスノーリーレンジ Snowy range 10,847ft (=3,254m) という標高の高い峠があるのでここに

寄ってみることにする。峠周辺は小さな沼や小川が多く、湿地帯が多い。花も多くとても美しい環境である。ロッキーウスバが飛んでいる良さそうな草原を見つけたので、ゆっくり採集することにする。ここは平坦で子供でもパルが採りやすかった。草原にはその他に、クリクサスタカネヒカゲやスカッターモンキチョウ、グランドンシジミなどがいた。ここは特に中型ヒョウモン類の種類が多く、同定がややこしい。子供が、寒地性のグリズリーチャマダラセセリ *Pyrgus centaureae loki* を捕まえたので、探したがここではこれだけ。ロッキーウスバのみは、どうやら白いネットを避けるらしく、走らないと捕まえられない。ここでも、目を凝らして早を数頭捕らえられた。この地の個体は、やや大型で、雌がやや褐色がかった黒の多いものである。

小川に沿って沢をつめると、エピプソーダベニヒカゲやキャリクレアヒョウモンがおり、グリズリーチャマダラセセリも少し採れた。図鑑によるとグリズリーチャマダラセセリは、2年性で奇数年に発生するとある。今年は偶数年だから少ないのであろう。採れただけでも幸運だ。結局ここでしか見なかった。黄色いモンキチョウは、湿地のようなところでは乾燥草原のアレキサンドラモンキチョウとは別種のスカッターモンキチョウであることが、だんだんつかめてきた。ここでは、クモマツマキチョウの仲間を期待したが、全く見なかった。かわりに似た感じのオオクモマシロチョウ *Euchloe ausonides* が採れた。環境が良い感じなのに蝶の数が少ない印象が残った。春と初夏の端境期だったのだろうか。それともこれが普通なのだろうか。

ゆっくりしすぎたため、目的地ジャクソンに到着するのが遅れた。それにしても、アメリカは広い。行けども行けども、果てしなく道が続いている。

7月19日 (7日目)

ジャクソン Jackson は、グランドテトン国立公園の南の玄関口にあたり、観光地としてにぎわっている。今日は早出して、まず近くのテトン峠 Teton Pass, 429ft (=2, 529m) に行った。ここは、情報をもらっていたところである。もう一種のウスバシロチョウとクモマツマキチョウが目標である。峠を西側に少し下ったと



図2: グランドテトン国立公園では、テトン山を中心とした山並みを様々な方向から眺められる。見る時刻や方向で雰囲気は全く異なるところが魅力である。川辺の湿地にはムース (牛のようなシカの仲間) などの動物が見られる。

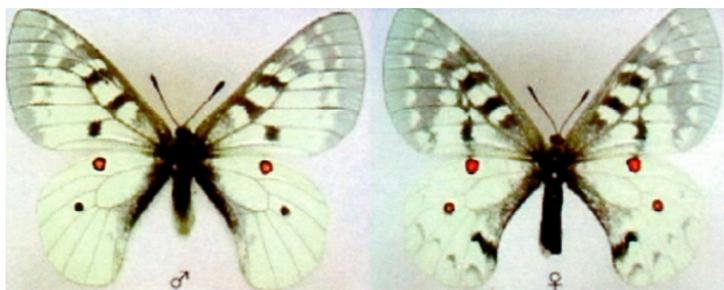


図3: クロディウスウスバシロチョウ *Parnassius clodius* は、主に湿った林縁などに分布する。習性は日本のウスバシロチョウと同様である。北米特産種。

ころから横道にそれて入ってみた。すぐに、小さな開けた谷間に出た。この辺は、今までの乾燥した環境とは全く異なり、林の中で湿った感じの茎の高い草が茂っている。赤や青の高山植物の花が

とても美しい。草地に陽が当たって気温が上がるに連れて、蝶が飛びだした。さっそく、大きな白い蝶がひらひらしている。環境と飛び方ともに日本のウスバシロチョウとそっくりだ。捕らえてみると、間違いなくクロディウスウスバシロチョウ *Parnassius clodius clodius*であった。あまり大きくはないが赤斑がちゃんとついている。時期が遅いようで、すれたものが多い。ロッキースバとは住む環境が全く違うようだ。飛び方も緩やかで、採りやすかった。これで、主要目標を達して、余裕が出た。あとは、次の目標のクモマツマキチョウを狙えばよい。環境が素晴らしいにも関わらず、蝶の数はそれほど多くはなかった。それでも、かなりの種類が採れた。道ばたの青い花のマメ科の草Lupinesには、メリッサヒメシジミ *Lycaeides melissa melissa*がおり、モルモンウラギンヒョウモンやゼレーネウラギンヒョウモン *Speyeria zerene*、ヘスペリスウラギンヒョウモンなど中型のヒョウモン類が時々飛んでくる。日当たりの良い未舗装の道には、赤茶色が美しいパラヒョウモンモドキ *Chlosyne palla calydon* や山地性のライラックベニシジミ *Lycaena nivalis nivalis*などが集まっている。ロッキーイチモンジも1♀だけ採れた。青と赤の花の美しさが印象に残る場所であった。

昼から、欲を出して、次なるポイントのアイダホ州のグランドタギーGrand-Tagheeというスキーリゾート地へ向かった。ところが、ここからが大きな誤算であった。情報では、途中の道沿いが良いポイントで、ロッキークモマツマキチョウ *Anthocharis stella*やフタオトラフアゲハ、ロッキーイチモンジなどが沢山いるはずだった。誤算だったのは、まず道路工事していて、車を止めて採集できるところが途中にほとんどなかった。仕方なく、スキー場に車を止めて、あたりをしてみるが、蝶が少ない。クロディウスウスバやメリッサヒメシジミを少し採った程度で、ロッキークモマツマキチョウもフタオトラフアゲハもロッキーイチモンジもない。確証はないが、どうやらすでに終わってしまっているようだ。リフトに乗って頂上まで登ると非常に良い眺めである。テトン山Mt. Tetonが間近に迫って美しく、近くには雪渓もわずかに残っている。ここに来たのは、情報に基づいてエディタヒョウモンモドキ *Euphydryas editha beani*をいただくためであるが、国立公園の境界近くであるので、こそこそと”お散歩ネット”で済ませた。いずれにしても数は多くない。他には、グランドシジミとロッキースバが見られたくらい。ロッキースバを採ろう

と下の草原でしばらく粘ってみたが、天気も曇ってきて、これという成果はなく退散した。

7月20日（8日目）

季節が異常に早く進んでいると感じたので、予定を変更して、標高の高い峠を狙うことにする。そこで、この日は、トグオテー峠 Togwotee Pass 9,658ft (=2,897m) というところへ向かった。ここは、図鑑でテアノベニヒカゲ *Erebia theano* が道脇で見ることのできる数少ない場所とあったので、これが狙いである。標高を上げるに従って、次第にきれいな草原が見えて良い感じになってくる。途中に、レクリエーションエリアとの表示があり入ってみた。子供達も安全そうな、小さな池の横の草原に踏み込んでみる。さっそく、足元から黒いジャノメが飛び出し、採集してみるとこれがこの周辺の特産種のハイデンヒメヒカゲ *Coenonympha haydeni* であった。ここではこの種が多く、子供達にも採りやすく皆楽しめた。また、高原の蝶エディタベニシジミ *Lycaena editha* もはじめて採れ、エピプソーダベニヒカゲも結構採れた。林縁では、タカネキマダラセセリ *Carterocephalus palaemon* まで採れた。

さらに登ると、峠近くに花の多いきれいな草原があったので、車を止めて採集にかかる。まず、1頭クロディウスウスバがとれた。やはり、峠の西と東ではかなり環境が違うようだ。エピプソーダベニヒカゲが何頭か採れたが、どうも傷んでいるものが多い。青いシジミは、またメリッサヒメシジミかと思っていたら、何とアメリカカパイロシジミ *Glaucopsyche lygdamus oro* であった。この蝶は、東部亜種 *ssp. lygdamus* を6月にメイン州で採ったが、本来春の蝶である。そして、ちょっと小さい感じのベニヒカゲを採ってみると、これが狙いのテアノベニヒカゲであった。日本のベニヒカゲに慣れた私にとっては、おもちゃのような幾何模様の随分変わったベニヒカゲである。林の斜面に入ってみると、小さなシロチョウが降りてきた。とらえてみると、嬉しいロッキークモツマキチョウであった。こんなところで会えるとは予想外であったので、なおさら嬉しい。もっと、追加しようと探したが、結局♂2頭しかいなかった。小さな林間の日溜まりに蝶が集まっていて、ここで高山



図4：ロッキークモツマキチョウ *Anthocharis stella* は、高標高地の沢筋などに局地的に分布する。雄は地色が白で表面前翅先端のオレンジの部分は黒い縁取りがはっきりしている。裏面の模様や色彩は日本のクモツマキチョウとは異なる。雌は地色が黄色でオレンジの前翅先端まで持つ美しいものなのだが、残念ながら出会えなかった。

性のオレンジに輝くクプレウスベニシジミ *Lycaena cupreus snowii* とエディタヒョウモンモドキを採った。この峠は、今までよりも涼しい印象であったが、ようやく春がやってきたところだったのであろう。蝶が一斉に出てきた感じた。例年の7

月の気候ならば、前日のグランドタギーもこんな感じであったに違いない。道沿いで子供達が採集した中に、オオクモマシロチョウが数頭入っていた。私は他の蝶に気を取られていてこんな蝶がいるとは最後まで気付かなかった。子供達は、目に付きやすいシロチョウをせっせと採っていたのである。この中にペリドネモンキチョウ *Colias pelidne minisni* も少しいた。

後日、2001年の正月に暢気に展翅をされていて、あることに気がついた。キャリクレアヒョウモンと思っていた小型ヒョウモンが実は別種のイエローストーンヒョウモン *Boloria kriemhild* であったのだ。よく似ていたのでわからなかったが、展翅すると雰囲気が違う。こいつらは、地域変異が大きいので本当にやっかいである。このイエローストーンヒョウモンは、イエローストーンヒョウモンモドキ、ハイデンヒメヒカゲとともに遺残的にイエローストーン周辺の一部のみ生息するこの地を象徴する蝶である。ごく近縁種がアジアからユーラシアにいるという。この三種のうち、イエローストーンヒョウモンモドキ以外を手中にしたことになる。それにしても、ロッキーのヒョウモンは同定が難しい。ウラギンヒョウモンの仲間とホソバヒョウモンの仲間が沢山いて、よく似ている。地域変異が大きいので、図鑑の絵合わせでは足りないのである。解説を読んでいるうちに、数種が頭の中でごちゃごちゃになってくる。

次に近くの山に入ってみると、グリズリーに注意とある。針葉樹林内は、蝶が少ないがイエローストーンヒョウモンとペリドネモンキチョウがいた。蝶が多いところは熊も多いということか。ちょっと、恐ろしい。でもこの峠は、変わった蝶が多くて本当に良いところだった。ゆっくりすれば、まだまだ他にもいそうなところだ。

7月21日 (9日目)

昨日宿に帰り着いて荷物を整理したところ、貴重な網の竿が1本足りないことに気づいた。どうやら、子供が昨日のレクリエーションエリアの草原の中に置いてきたらしいことが判明。後悔の念に囚われ、ちょっとブルーな気分だった。今日は、その場所に行って竿を探してから、別の場所に行くことに決定。正直言って半分諦めていたが、草むらを少し歩くと運良く発見できた。エピプソーダベニヒカゲやヘロイデスベニシジミ *Lycaena helloides megaloceras* も採って、すがすがしい気持ちに戻った。

グランドテトン国立公園を通り抜けて、イエローストーン国立公園Yellow-Stone National Parkとの間にあるアイダホ州へ抜ける道へ入ってみる。狙いは、イエローストーンヒョウモンモドキである。キャンプ場のようなところで、車を止めて降りてみる。林の中の広くない草むらで、何か蝶が飛び回っているのが見える。さっそくとらえてみると、エディタバニシジミであった。アザミの仲間の大きな花に沢山集まっている。採っても採ってもどこからか現れる。蝶の集まる不思議なところであった。この種は、高原性プレーリーの



図5: アオベニシジミ *Lycaena heteronea heteronea* は、その名のごとく雄の表面は青く輝くブルーで、ベニシジミとは理解しにくい。しかし、雌の表面は褐色で、ベニシジミの印象がある。ロッキー山脈では、高原の開けた草原に多い。

ベニシジミであるから、豊かな草原の存在を示している。この中に、マリポーザベニシジミ *Lycaena mariposa* が混ざっていたのだが、採集時には気付かないお粗末だった。他には、ペリドネモンキチョウ *Colias pelidne* が林道脇に飛んでおり、ヘロイデスベニシジミやヒョウモン類もいた。黄色いモンキチョウ類は、皆本当によく似ていて同定が難しい。知らないでいると、みんな同じミヤマモンキチョウである。ただ、生息している場所と飛び方が違うようである。ペリドネモンキチョウは、林の中の湿地帯に住んでいることが多いようである。裏面に黒い鱗粉が出るのでややわかりやすい。雌は、なぜかほとんどが白色型である。セセリではソノラアカセセリ *Polites sonora utahensis* という変わったものがいた。別の開けた牧場横の草原には、ヘロイデスベニシジミやヒョウモン類が多かったが、歩き回っているうちにブルーの早く飛び回るシジミを発見。やや苦労して捕らえてみると、これが Blue copper、つまりアオベニシジミ *Lycaena heteronea heteronea* であった。採りたい蝶の1つだったので嬉しかった。この後数頭追加できた。雌は茶色でこれはベニシジミとすぐに気づくが、雄は知識がないと正体を間違える。花によく止まるので、これを捕まえばよいが、飛んでいるとネットするのは難しい蝶である。ロッキーイチモンジもいたが、もう傷んでいてあまり採る気にならなかった。それにしても、この日も暑かった。ほとんど真夏の蝶であり、ヒョウモンモドキがいそうな感じはしなかった。

南東の入り口からイエローストーン国立公園へ入り、観光する。参考までに述べておくと、グランドテトンとイエローストーンの入園料は共通で、1週間レシートを見せれば何度でも入れるので、捨てないように。ただし、地図は別なのでしっかりもらう。さっそく有名なオールドフェイスフル Old Faithful という一種の間欠泉を見に行ったら、吹き出すポイントは沢山あって、その一つの前の観覧席にてじっと吹き出すのを待つ。15分くらいで吹き出すと、解説されているが、なかなか出ない。そろそろ出る、と思ったら小さいのでフェイントを食らったりで、結局待つこと30分以上経って、無事大きな噴水。近くで見るとやはり迫力がある。少し遅くなって、コーディー Cody という麓の町まで走る。これが、遠いので大変だった。所要時間は、よく計画しておかないと、アメリカは途方もなく広いので私のように苦労することになる。

ロッキー採集旅行の画像は、ホームページでも紹介しています。

<http://www1.sphere.ne.jp/colotis/>

《くじ いちえい 〒920-1161 石川県金沢市鈴見台3-1-3》

白峰などの白山周辺で記録されているに過ぎない。そんなエルタテハが、窓を開けつ放しの嵯峨井車で、シートに口吻をのばしていた。

小雨に煙るフジミドリ

土砂降りでは、どうしようもないが、何とかなりそうなお小雨の日は、他に行き場所が無いからと、カメラ組もネット組も医王山を指すらしい。小雨に煙るゼフ各種、晴れの日は違つて、ちよつとのんびり観察できる。

今年はどこかでクロシジミ

ギフに始まりゼフも大発生し、今年には虫が多い。こんな年は、これまで何年探しても見付からなかったクロシジミを探すに限る。今年こそはどこかで見付かる可能性が高い。

平地のゼフが大発生

今年にはゼフが大発生し、平地ではミズイロ、アカ、ウラナミが大発生。喜んだ松井氏は、普段持ったことのないゼ

フ竿を担いで、加賀や能登の平地を叩き回った。毎週土日と叩き回り、一ヶ月半が過ぎようとした頃、突然首が回らなくなつた。イタタタタ

アカヘリミドリタマに入れ揚げる

月曜から仕事をサボつて福島まで出かけたオジさん三人、意気揚々と出かけたが、二人はス力を引いた。これで済む訳が無く、ス力組は木曜に再チャレンジ。金沢を朝の三時に発ち、福島日帰り。現地にどれだけ居たのか知らないが、獲物は二頭。これで気持ち収まった。

蝶類年鑑二〇〇一発行

五年ぶりの発行となつたが、掲載報文は二〇〇〇年発行分に止まり、一九九六年から一九九九年までの四年分は掲載されていず、今後の発行もままならないらしい。地方の報文を掲載した年鑑は、己を紹介し他を知る頼もしい存在であつただけに、存続を切に希望したい。

展翅がなかなか決まらない

シジミチヨウ、背中の針が刺しにくく、真ん中に刺してははずが、ずれている。翅脈の位置もよく見えず、ここぞと思うと、穴が空く。これが遠視と言うものか。

白夜に舞う極北の蝶

久慈氏、帰国経路にカリフォルニアとアラスカを挟み込み、2週間かけて日本にたどり着いた。ヨセミテとデイズニールランドで家族サービスした後は、ダートのハイウエーに泣かされながらも、白夜に舞う極北の蝶に網を振つた。

例会の記録

六月七日(木)城南管工一階にて八時から開催。

蝶談会ホームページの会員専用と公開の両掲示について、今後の運用を話し合う。

今回は、西和人氏が初参加。虫の話題は、十五日はオシマルリだ、五十年ぶりのナガサキアゲハ、檜枝岐で見たギ

フチヨウ属、ウラナミアカが大発生、動き出した舐倉島アサギプロジェクト、これが噂のCDロム、熊本出身の西です、などなど。

参加は、中西、細沼、松井、井村、山岸、西、生田(耕)、生田(省)、指田、吉村の十人。

例会の記録

七月五日(木)城南管工一階にて八時から開催。

会則も新たに新生「石川むしの会」が動き出し、事務局を務める富沢氏が、とつくりばち六十七号持参で、宣伝活動を行った。

各自の話題は、マルコガタノ能登で発見、医王山のエルタテハ、これがオシマルリの生虫だ、今日採つたアカヘリミドリタマ、医王山は全国屈指のゼフ産地、ヤマクロシジミのポイントは、などなど。

参加は、久慈、生田(省)、細沼、中西、松井、富沢、西、生田(耕)、井村、山岸、指田、吉村の十二人。
【表紙デザイン…小幡英典】

会員の動き・しゃべの動き

五月三十一日は乱舞状態
民宿にノートを置いたり、
アチコチにポスターを貼った
りと、舳倉島のアサギ情報を
集め出した日吉氏に、思わぬ
情報が入ってきた。五月三十、
三十一日は多数観察され、渡
り鳥同様天候が崩れると島に
たくさん下りてくるらしい。

五十年ぶりのナガサキアゲハ
福井の若狭周辺に住み着い
たと聞いてから、今か今かと
待っていたが、ついに山中町
で一匹が採集された。春型が
姿を見せたとなると、夏型は
もつと可能性が高い。

二頭目のナガサキアゲハ
採れたナガサキが新鮮な
とすれば、周辺での発生もあ
り得ると、一頭目から九日後
に二頭目を狙った松井氏だっ

たが、ここだと思えるポイン
トはモンキアゲハばかり。

四十分授業で蝶の羽化を観察
決められた時間内に蝶の羽
化が観察できると、小学校で
は人気急上昇の昆虫館出張授
業。腹節が二つまで伸びたと
ころで低温保存し、授業の始
まりと共に常温に戻すと、し
ばらくして羽化が始まるらし
い。今はモンシロでやってい
るが、ギフでも可能とか。

ゼフが乱舞の医王山
採集地を医王山から倉が岳
にシフトしていた嵯峨井氏、
医王山のメインルートが数年
ぶりに開通したのを機会に訪
れると、やはりゼフの乱舞。
アイノ、ジョウザンなんぞに
は目もくれず、フジ、メスア
カにネットを振った。

根岸コレクション南米の蝶と蛾
「ベネズエラに蝶を求めて
五万キロ」を、かつて「やど
りが」に発表した根岸晃六氏、
この時の採集品を「石川ふれ
あい昆虫館」に寄贈するにあ
たって、コレクションの内容
を小冊子にまとめた。

いろいろ賑わう医王山
六月一七日、各種ゼフで賑
わう医王山は、カメラ組や
ネット組でも賑わった。カメ
ラ組は言わずと知れた竹谷、
田辺、左合の3氏。

どんどん増えるウラナミアカ
キゴ山スポセン前のミズナ
ラ林、一九九三年頃からウラ
ナミアカが観察され始め、数
年前から増えだした。そして
今年、観察されるほとんどが
ウラナミアカになった。

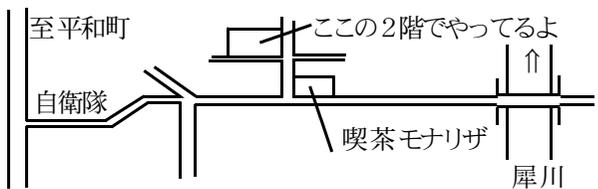
医王山で採れたエルタテハ
石川のエルタテハは稀な存
在で、これまでに二〇頭は採
れていない。しかも、尾口や

翔 151号

Tobu 2001年8月1日発行
百万石蝶談会

<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>
金沢市大場町東871-15 松井方
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から
TEL参加もOKです (076-244-3318)



目 次 (151号)

山口英夫・荒木克昌：マルコガタノゲンゴロウ石川県で記録(第1報)	1
富沢 章：オオセンチコガネの採集記録	2
日吉芳朗・日吉宏朗・日吉南賀子： 石川県輪島市での2000年の蝶採集記録から	3
久慈一英：ロッキー山脈採集旅行2000 Part 2	7
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	14